氏名	新　太喜治
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲第73号
学位授与の日付	昭和37年3月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系産科婦人科学専攻 （学位規則第5条第1項該当）
学位論文題目	**子宮頸癌の剝脱細胞学的研究** 特に腹腔内異型細胞と腟内細胞出現率について
論文審査委員	教授 橋本　清　教授 浜崎幸雄　教授 妹尾左知丸

学位論文内容要旨

子宮頸癌手術患者200例の腹腔液並びに腟内容について剝脱細胞学的検索を行った。

1）手術可能な子宮頸癌患者の開腹直後の腹腔液中には原則として癌細胞の出現を認めなかったが，漿膜細胞に由来すると考えられる異型細胞を27.5%に認めた。この出現は子宮頸癌の進行期，病巣の大きさ，腹水量とは無関係であったが，リンパ節転移陽性のものに有意に多く認められた。

2）腟内容中の癌細胞，ＳＲ細胞，組織球の各出現率を調べてみると，癌細胞と組織球の出現はほぼ平行関係にあり，これらの出現率の高いものにリンパ節転移陽性及び腹腔内異型細胞陽性の場合が有意に多く認められた。ＳＲ細胞出現率はいずれとも無関係であった。

3）術後早期の再発は腹腔内異型細胞陽性のもの及び腟内癌細胞出現率の高いものに有意に多く認められた。

4）以上の事実から子宮頸癌に於いて腹腔内異型細胞出現の有無及び腟内細胞出現率の個人差は，癌に対する生体抵抗性の差異によるものではなかろうかと推論した。

日本産科婦人科学会雑誌　第14巻第5号（昭和37年5月1日発行）に掲載の予定

論文審査の結果の要旨

新太喜治提出の「子宮頸癌の剥脱細胞学的研究」（特に腹腔内異型細胞と腟内細胞出現率について）に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

子宮頸癌手術例406例のうち腹腔液を採取できた200例，その他各種婦人科疾患80例の腹腔液に就いて調べたが悪性細胞の出現は4例に過ぎなかった。子宮頸癌では腹膜穿孔例に1例だけ認めた。

手術可能の子宮頸癌では原則として腹腔液内に悪性細胞は出現しない。しかし漿膜上皮に由来すると考えられる異型細胞を55例（27.5%）に認めた。頸癌の進行期区分，原病巣の大きさなどとは無関係であったがリンパ節転移陽性のものに多くみとめられた。

腟内容中の癌細胞と組織球，S-R 細胞の出現率をみると癌細胞は組織球の出現と略々平行する。これらの出現率の高いものにはリンパ節転移陽性のものが多く，腹腔内異型細胞の出現も多くみられた。S-R 細胞とは関係がなかった。

術後早期の再発は異型細胞陽性，癌細胞出現高率のものも多くみられた。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。